

# 製本のススメ

Vol. 29

6月の花嫁は幸福になれるという欧州の習慣も クリスマス同様すっかり馴染んでしまいましたね。雨の季節も それなりに楽しく過ごしたいものです。

今回は**製本用語**のお話

当社では、毎日皆さんから多種多様の発注をいただきます(有難うございます)でも、用語の使い方も多種多様で、時々問い合わせをすることがあります。例えば『天綴じで糊付け加工』とか『アジロで無線綴じ』など、いったいどうすれば良いの?という発注書が送られてきます。特に帳票の発注には多く、勘違いを引き起こす要因になりますので、注意してください。

そこで特別な加工は別にして、一般的な用語をいくつか挙げてみました。

**無線綴じ** 昔は糸で綴らない綴じ方を無線綴じといいましたが、最近ではホットメルト糊を使う綴じ方に、主に使われます。**背中をカッターで切ってしまう**ために、**全ての頁がペラと同じ状態**になります。そこへホットメルト糊が付けられます。

**アジロ綴じ** これは**背中を切りません**。折る時にアジロ刃という部品を付けて紙を折ります。その後ホットメルトが付けられます。頁の抜け落ちというような事故が極めて少なく、アート・コートのような**コーティング加工の紙にはオススメ**です。

また、10頁以下(紙の枚数が5枚以下)では、**バインダーが適合しません**(本文の厚みが薄い為)ので、**どちらの場合も糊くるみ(手ぐるみとも言います)**となります。

**天綴じ** 伝票の場合**「綴」**と云えば針金綴(ホチキスの様に綴じる)を意味し多くの場合は 切り取りマシンが入りますので、マシンの位置を指定する必要があります。

**天のり** 糊で固めて、**便箋のように1枚ずつ剥がす**ことが出来ます。糊綴じとも言いますが、糊の場合**「固め」と言うほうが一般的**です。



## Tea break

製本のススメに白羽の矢が立ち、東印工三多摩青年部様主催で**7月20日(金)**に立川紙業さんと一緒に、**紙と製本のお話し**をいたします。知らなきゃ損する**情報満載!**スキルアップ間違いなしです。

by (株) 井関製本